

# SUFD Report 2020

令和2(2020)年度 仙台大学FD年次活動報告



本学では、教員を中心にFD活動を実施している。主な事業内容は、(1) 学内FD研修会の企画運営実施、(2) 授業改善アンケートの実施、(3) シラバス作成の支援、(4) FD活動の広報・周知である。本年度は上記に加え、(5) 科目ナンバリング・カリキュラムマップ・カリキュラムツリーの作成を行った。

## (1) 学内FD研修会の企画運営実施

本年度は、次の5つのFD研修会を実施した。

### ① 新任教員FDセミナー

4月2日に今年度着任した新任教員を対象としたスタートアップ支援FDセミナーを開催した。本学のカリキュラムをはじめとする教務に関する事項とFD活動等について説明をした。

### ② 学修状況調査の概要報告研修会

本学では7月6日から31日にかけて、学生に対する支援と指導のために日常の学生の学修状況についての基礎的な資料を得ることを目的とした学修状況調査を全学生にWebアンケートにて実施した。この調査結果について9月15日に全教員に報告する研修会を開催した。この調査結果を通して、学年、学科、希望する進路、スポーツ活動の有無等と学習状況との関係が示された。また、昨年度と比較すると自主学習時間が延長しコロナ禍によるオンライン授業の影響の可能性が示された。

### ③ データサイエンス教育に関する研修会

データサイエンスとは、データを用いて情報科学、統計などのアプローチから新たな科学的知見や社会に有益な知見、ビジネス上の便益をもたらすよう働きかける学問である。先端分野である機械学習や深層学習などのAI技術とも関連しており、学術的な研究だけでなく教育への応用に注目が集まっている。本学では、このデータサイエンスと教育にどのように応用していくかについて「Python(パイソン)を用いたデータ分析の紹介・共有～教育や社会生活への活用に向けて」というテーマで10月27日にWeb研修会を開催した。本学の林准教授よりバドミントンのゲーム分析を事例に説明がなされた。

### ④ 授業づくりのためのFD研修会

本学では学生と教員が参加する研修会を毎年開催している。今年度は「オンライン授業の改善の方向性を探る」をテーマに掲げ、12月1日に研修会を開催した。Web上で教員と学生が集まりオンライン授業についてディスカッション

を行った。教員と学生を交えたグループを3つ作り、それぞれのグループごとにオンライン授業におけるメリットやデメリットやこれからのオンライン授業への期待・あり方についての意見を出し合った。その後、それぞれのグループの意見を報告し合った。

#### ⑤ WEB シラバスに関する研修会

本学では学生にとってよりわかりやすいシラバスとするために、教員に配布している「シラバス作成の手引き」を毎年加筆修正している。本年度からWebシラバスに移行したため、WEBシラバス操作や入力 of 注意点についての説明会を12月15日に実施した。

### (2) 授業改善アンケートの実施

原則としてすべての科目を対象に「FDネットワーク“つばさ”」のフォーマットで「授業改善アンケート」を受講学生全員に実施している。個々の授業の改善を目指し、授業内容・教授方法に対する学生の反応を探ることが、本アンケートの大きな狙いの一つである。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン授業が主だったことから、Webアンケートにより実施した。この結果は、本学独自の「授業改善アンケート活用フォーム」を用いて、集計結果を基に各教員が担当科目と全体平均などとの比較が出来るようになっている。

### (3) シラバス作成の支援

シラバスは学生に対して授業内容を示すだけでなく、大学設置基準や認証評価等への対応も兼ねており、教学経営において重要なものと考えられる。シラバスを作成すること自体がFD活動の一環であり、教育改善企画運営委員会では毎年次年度の様式や記載内容の項目について検討し、統一様式により原則すべての開講科目について作成を依頼している。学生にとってよりわかりやすいシラバスとするために、本年度も教員に配布しているシラバス作成要領（「シラバス作成の手引き」）を加筆修正した。なお、シラバスは本学ホームページにも掲載し、保護者等も閲覧できるようにしている。

### (4) FD 活動の広報・周知

#### ① FD 広報冊子の作成

本学では、FD 広報冊子（SUFD Report）を年に1度発行している。本年度発行するもので第8号となる。この冊子の発行の目的は、本学の教育改善企画運営委員会が実施しているFD活動の内容を、学内外に周知することである。

#### ②学外のFD 研修会情報の提供

学外において開催されているFD研修会についての情報提供を行っている。メールやポス

ター等で届いた開催案内を教員向けに整理し、全教員を対象にメールで周知をしている。

### (5) 科目ナンバリング・カリキュラムマップ・カリキュラムツリーの作成

本年度はカリキュラムの体系的・整合性を明示、チェックする機能として「科目ナンバリング」「カリキュラムマップ（カリキュラムチェックリスト）」「カリキュラムツリー」の作成作業を行った。

#### ① 科目ナンバリング

ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、授業のレベルや順序、学問の分類等を表し、教育課程の体系的性を明示する仕組みである。授業のレベルや順序、学問の分類を示すことは、学生が適切な授業を履修選択する手助けとなるばかりでなく、その授業が教育課程のどの位置にあり、その目的を把握することにもつながる。また、科目同士の整理・統合と連携により教員が個々の科目の充実に注力できるといった効果も期待できる。本学のナンバリングは、開講学科・部局や学問領域を示すアルファベットと数字を組み合わせた10文字で示すこととした。

#### ② カリキュラムマップ

##### （カリキュラムチェックリスト）

カリキュラムマップはscope（整合性）を示すものであり、各大学または学部でカリキュラムに関する整合性を自ら点検するためのもので、学位プログラムごとに作成することが基本とされる。つまり、カリキュラムマップとは、領域あるいは観点別に記述されたDPと各授業の到達目標との対応表を意味する。そのため、カリキュラム構築のため各科目も総和がDPに対応しているかのチェック表との考え方が一般的である。本学のカリキュラムマップは、各学科のディプロマポリシーの着眼点との関連性について表を用いて示すものとした。

#### ③ カリキュラムツリー

カリキュラムツリーはsequence（体系的・系統性）を示すものであり、各大学または学部でカリキュラムに関する体系的・系統性を自ら点検するためのもので、学位プログラムごとに作成することが基本とされる。つまり、カリキュラムツリーとは、学士教育課程に配される各科目オンDPに対する体系的・系統性を示すものである。そのため、カリキュラム構築の条件の体系的・系統性の検証に用いるものとの考え方が一般的である。本学のカリキュラムツリーは各学科で作成をした。

# 報 告 REPORT

## 2020年度 新任教員のためのFDセミナー



### 開催プログラム

日 時：2020年4月2日（火）11：00～12：30

会 場：A棟2階 大会議室

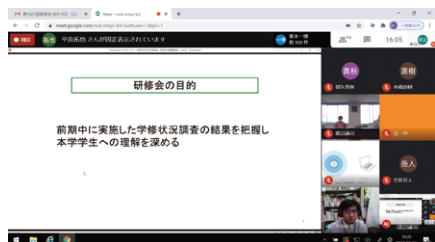
持ち物：学生便覧、授業概要（どの学科でも）、オリエンテーション資料、TIMETABLE（時間割）

時刻	内容												
11:00	開会挨拶												
11:05	教務について <ol style="list-style-type: none"> <li>① 履修登録と成績評価</li> <li>② 教室での機材の利用</li> <li>③ 学生の出欠管理</li> <li>④ 学生への連絡・告知</li> <li>⑤ 休講</li> <li>⑥ オフィスアワー</li> <li>⑦ その他</li> </ol>												
11:20	カリキュラムについて <ol style="list-style-type: none"> <li>① カリキュラムポリシー</li> <li>② カリキュラム全体の編成</li> <li>③ 担任制</li> </ol>												
11:35	教養教育について <ol style="list-style-type: none"> <li>① 体育系大学の基礎教養</li> <li>② 仙台大学の専門教養演習</li> <li>③ 学習基礎教養演習</li> </ol>												
11:50	FD活動について <ol style="list-style-type: none"> <li>① FD活動とは</li> <li>② シラバス（授業概要）</li> <li>③ 授業改善アンケート</li> <li>④ FD研修会</li> </ol>												
12:00	フリートーク（疑問質問など） <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>グループ</th> <th>新任教員</th> <th>FD委員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>千田先生、佐藤先生、櫻井先生</td> <td>郡山先生*</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>氏家先生、白幡先生、田口先生</td> <td>藪先生*</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>井上先生、頼先生、片岡先生、加畑先生</td> <td>林先生*</td> </tr> </tbody> </table> <p>*コーディネーター役</p>	グループ	新任教員	FD委員	①	千田先生、佐藤先生、櫻井先生	郡山先生*	②	氏家先生、白幡先生、田口先生	藪先生*	③	井上先生、頼先生、片岡先生、加畑先生	林先生*
グループ	新任教員	FD委員											
①	千田先生、佐藤先生、櫻井先生	郡山先生*											
②	氏家先生、白幡先生、田口先生	藪先生*											
③	井上先生、頼先生、片岡先生、加畑先生	林先生*											
12:20	閉会挨拶												



## FD 研修会

日 時：令和2年9月15日（火）17時30分～18時00分  
 会 場：Google Meet（オンライン）  
 講 師：教育改善企画運営委員会 平良拓也委員長  
 参加者：全教員  
 テーマ：令和2年度学習状況調査の概要報告



本研修会は①前期中に実施した学習状況調査の結果を通し、本学学生への理解を深めることを目的として実施した。

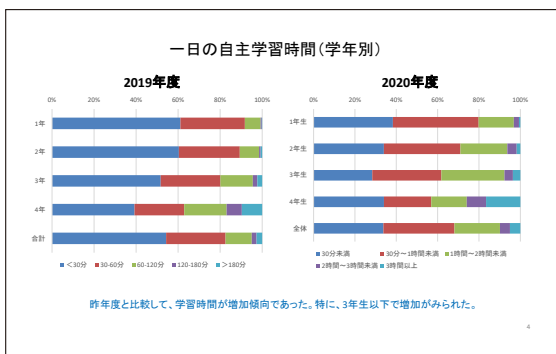
今年度、全学生を対象として実施した「学修状況調査」の結果を集計した資料を基に、教育改善企画運営委員会の平良拓也委員長から、学年、学科、希望する進路、スポーツ活動の有無等と学習状況との関係が示された集計結果の報告と共に、今後の学生への対応について問題提起がなされた。

令和2年度 仙台大学FD研修会

令和2年度学修状況調査の概要報告

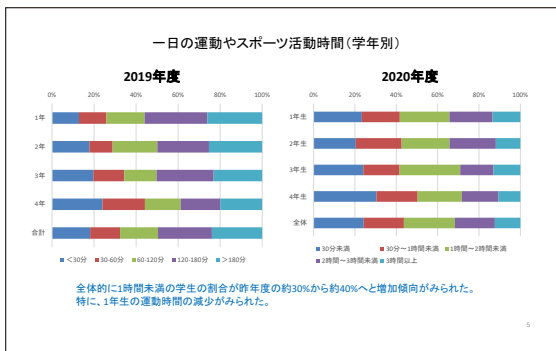
- ①開会・研修会の趣旨説明
- ②報告
- ③質疑
- ④閉会

令和2年9月15日(火)教授会終了後  
教育改善企画運営委員会



研修会の目的

前期中に実施した学修状況調査の結果を把握し、本学学生への理解を深める

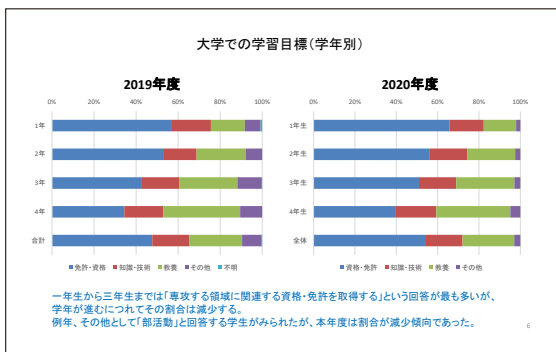


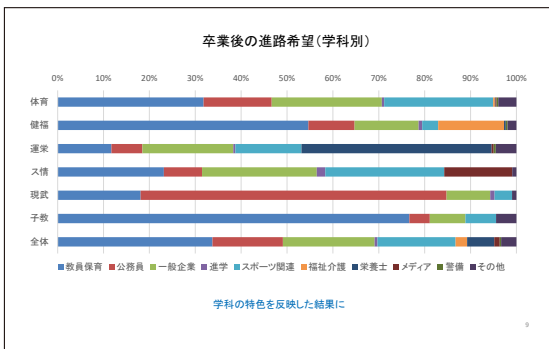
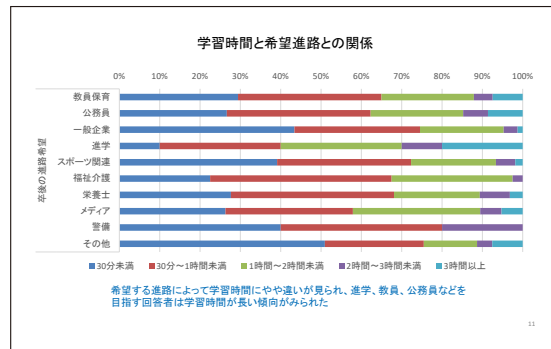
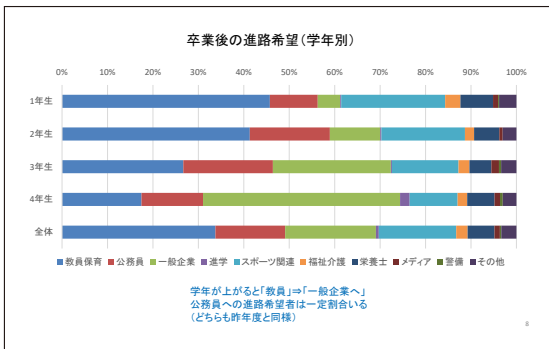
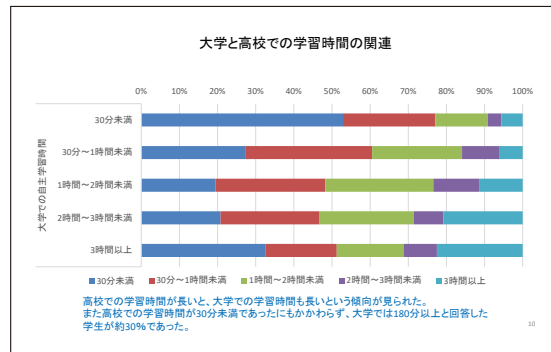
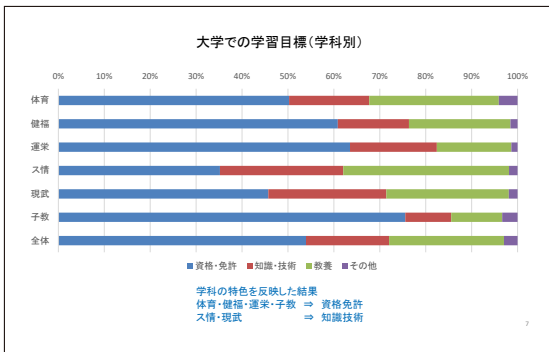
令和2年度学修状況調査の概要報告

【目的】  
学生に対する支援と指導のため、日常の学修状況についての基礎的な資料を得ること。

【調査内容】  
①基礎的情報:性別、学年、学科  
②授業時間以外での自主的な学習時間  
③授業時間以外での運動やスポーツ活動の時間  
④大学での学習で最も力を入れていること  
⑤高校3年時での授業時間以外での自主的な学習時間  
⑥高校3年時での授業時間以外での運動やスポーツ活動の時間  
⑦卒業後の進路として最も希望していること

【調査対象 / 方法 / 期間】  
全学生 / Googleフォームによる調査 / 令和2年7月7日(月)～7月31日(金)





- ### まとめ
1. 昨年度に比べて、学習時間が増加傾向であった。  
 四年生を除いてはオンライン授業に伴う課題による可能性がある。四年生で学習時間が相対的に長くなっているのは、教員採用試験など就職対策のための学習の必要さと関連があると考えられる。
  2. 昨年度に比べて、スポーツ活動時間が減少傾向であった。  
 コロナ禍による外出や身体活動の自粛、オンライン授業による課題が影響している可能性が考えられる。
  3. 1年次には資格や免許の取得を目標とする学生が60%弱と最も多いが、この割合は学年の進行とともに低くなる。  
 これは昨年度と変わらず、本学学生の特徴としてとらえても良いと思われる。
  4. 進路の希望として1年次では教員希望が最も多いが、学年が進むとその割合は減少する。  
 それに対して一般企業を目指す学生が増加している。  
 一方、「公務員」、「スポーツ関連の職業」を目指す学生はいずれの学年においてもある程度の割合が見られる。これも昨年度と変わらず、本学学生の特徴としてとらえても良いと思われる。
  5. 高校三年生の時に学習時間が短かったが、大学で学習時間が長くなる学生もみられ、大学で学習習慣が身につけている学生も一定数存在する。



## 報告 REPORT

### データサイエンス教育に関する FD 研修会

日 時：令和2年10月27日（火）17時30分～18時00分

会 場：Google Meet（オンライン）

講 師：林准教授

対象者：全教員

テーマ：「Python（パイソン）を用いたデータ分析の紹介・共有～教育や社会生活への活用に向けて」

本研修会はこのデータサイエンスと教育にどのように応用していくかについて考えることを目的として実施した。我々の仕事は、様々な面において膨大な「情報」との格闘になっていると言える。データの分析における一助として「機械学習」というものを紹介し、「機械」の力を借りて対話的に分析を進めていくという手段について、講師を務めた林准教授からバドミントンのゲーム分析を事例に現在の学びの成果が共有された。



# 報告 REPORT

## 2020年度 学生主体の授業づくりのためのFD研修会 「オンライン授業の改善の方向性を探る」

日時：令和2年12月1日（火） 14:30～15:50

会場：Google Meet（オンライン）

テーマ：「オンライン授業の改善の方向性を探る」

参加者：教員15名、学生12名



プログラム：

- 14:30 開会（司会：針生委員）  
話題提供（平良委員長）
- 14:40 ディスカッション  
＜討議の観点＞  
①遠隔授業のメリット  
②遠隔授業のデメリット  
③学生・教員が期待するこれからの遠隔授業
- 15:00 発表、質疑応答
- 16:10 閉会の挨拶（平良委員長）

参加者、およびディスカッションのグループ

＜討議＞＊グループ討議の司会はFD委員が担当・・・Meet A：林，Meet B：福田，Meet C：佐藤周

グループ	教員	体育	健康福祉	運動栄養	スポ情	現代武道	子ども
Meet A (林)	千田 氏家 井上 加畑	大島綾斗 内山優衣	上浦実咲 鈴木友紀	*	*	*	*
Meet B (福田)	佐藤 白幡 頼	*	*	我妻祐依 高橋穂乃香	中川 凜 毛塚太陽	*	*
Meet C (佐藤周)	櫻井 田口 片岡	*	*	*	*	江藤花奈 鈴木琉太	菅野ひかる 成田朋宏

### グループ討議のまとめ（学生・教員の意見）

#### ① 遠隔授業のメリット

＜教員＞

- ・ 授業を準備する時間をかけることができるため教えたことをまとめやすい。
- ・ 出席や課題管理を正確に行うことができる
- ・ 紙媒体を配布することなく授業が可能になる。
- ・ 学生の本音が聞きやすい。
- ・ 大人数の講義の場合、一人一人の提出物のチェックや事前事後の連絡が容易である。
- ・ 欠席の学生が後で講義内容を確認できる。課題の提出も可能。
- ・ パワーポイントや資料の共有が容易である。
- ・ 様々な家庭環境や事情を持つ教員にとって職場での長時間労働を前提とした仕事は難しい。遠隔授業・在宅勤務を併用することで働き方改革の一端となるのでは。
- ・ オンデマンド、オンラインと使い分けにより有効な伝達が可能となった（オンデマンドの有効活用が自学自習へのいざないとなった）。
- ・ グーグルフォームを使って学生の意見を集めて

画面に出したりして、意見の共有がしやすくなった。

- ・ゲーグルドキュメントを課題として出させるなどをするとWeb上で、学生一人ひとりの進捗状況が見れるため授業進行に有効であった。
- ・オンデマンドの場合には、本当に平等に同じ画

面を見て、学修するということなので、ある意味では非常にリラックスして、何回も復習もできるの、そういう意味ではいいのかと思う。

- ・学生が一人ひとりのペースで学修できたので、リラックスをして（プレッシャーを感じずに）授業に取り組んでもらえたのではないかと。

### <学生>

- ・どこでも受けることができる。
- ・移動時間がない為、出席率が上がった。
- ・自分で集中する環境を作ることが出来やすくなった。
- ・自主的な勉強が出来ることと自分に合った環境でできる。
- ・時間を効率的に使える。
- ・スマートフォンで、気軽に資料が見れるため、空き時間での復習がしやすい。
- ・資料やスライドが添付されていると、後で何度も見返せる。
- ・動画、資料が残る分、振り返りがしやすくなった。
- ・コロナ対策になっている。
- ・通学時間が変わった。
- ・通学時間がない分、時間を有効に使えた。

- ・オンデマンド動画では、自分のペースで学修が可能（動画を止めて書いて全部をノートにまとめて）。
- ・遠征で、授業が受けられないが多かったが、今年は遠征先でもiPadで授業を受けることができたため、あまり他の学生と差が出来ずにすんだ。
- ・欠席する場合もメールなどで先生と連絡が取り合うことがしやすくなり、次の授業のための準備ができた。
- ・対面授業ではスライドをもう一度見直したいと思っても、それがなかなかできなかったが、オンライン授業では授業資料が配付されるため、効率良く復習ができる。
- ・自分の時間が作れたり、動画や資料で復習が出来たりする。

### <双方>

- ・紙媒体を使わなくとも授業ができる
- ・他大学での非常勤も担当しておりそこには社会人の学生も多いのだが、仕事をしながら教職課程を履修することのメリットは大きいとのこ

と。教員側も後からオンデマンド教材を視聴する前提での講義資料作成に工夫することが可能。

## ② 遠隔授業のデメリット

### <教員>

- ・相手の状況がわからず、伝わっているかどうかわからない
- ・著作権などの問題により教材として使いたい動画や写真などを躊躇したため単調なスライドになることもあった
- ・ネット環境が容易であるため、ネット検索のみによる課題回答の懸念がある
- ・テストができない
- ・学生の顔と性格？が覚えられない
- ・理解の度合いなど学生の反応が分からない。

- ・意思疎通が図れず一方的な講義になってしまう。
- ・実習での制作に支障がある。一旦入室すると学生が授業状態の確認が難しい。
- ・手書きでのレポート、小テストや課題の提出が困難なため、コピーチェック（コピペ防止）を何重にも行う必要がある。
- ・オンライン授業は使いながら、改善しながら、行っていたので、特にデメリットを感じたことは実はあまりなかった。



- ・どちらかと言えば、大学のLANの細さや、パソコンのスペックの低さなどの方がどちらかと言えば問題であると感じている。
- ・学生諸君と一緒に学修した感じでした。対面に比べれば、オンラインは数倍の準備時間をかけざるを得なかった。特に録音の場合はミスをすればやり直ししなければならないので、非常に時間がかかった。
- ・テストのカンニング防止策を講じるのが難しかった（容易ではなかった）。
- ・だんだん慣れてくると、課題提出が遅い時間になっていたり、ルーズさが出てきたのかなというところを感じている。
- ・どうしても人数が多い授業だと画面をオフにするため、画面の向こうでどういう表情して話を聞いているのかが全くつかめず、反応がわからないという難しさがあった。
- ・質問を促しても人数が多い授業では、一言いうことが難しいと思うので、教員側も学生から色々な意見をもらいたいと思って出ないで、その辺りもやり辛さと難しさを感じた。
- ・一方で、質問の内容が、授業に関するものではなく、課題の提出方法などオンライン授業に対する技術的なものが多かったため、学生自身もオンライン授業に慣れていないという印象である。
- ・授業中に奇声などを上げるような学生への対応をどのようにしたらいいのか、過去の事例がないので迷ってしまう。

### <学生>

- ・ひとつの授業のために、定期代等の負担が増える。
- ・出席を取るためだけの課題があり余計な負担がある。
- ・対面授業のためにわざわざ電車などを使い学校に来ることがあるため余計に時間の負担が増えるので、対面か遠隔かどちらか一方に絞るべき。
- ・きちんと評価されているか心配。
- ・ある授業では動画が1時間以上を超えて、スライドもあまり変わらず、集中できないものもある。
- ・課題を提出したにもかかわらず、していないことになっている事がある。
- ・先生と、生徒との会話がなく、先生が一方的に話しているため、集中力が続かない。
- ・課題が提出したにも関わらず、されていない場合があった。定期的に課題提出率などの提示がほしい。
- ・実践系（見る、聞く、触る）が出来ないため、理解度が対面と比べて下がる。
- ・機材トラブルで、授業時間が遅れ、その連絡が来ないので、生徒側は混乱する。
- ・Gメールとクラスルームの通知内容が被っており、Gメールでは、先生からの個別メールも来るので、Gメールで授業のお知らせメールを流さないでほしい。個別メールが流れてしまい、そのメールに気づかない。
- ・機器の不具合で先生側に生徒の音声が届かないトラブルがあったりと、機器トラブルが不安。
- ・カメラをオフにしていると自分の好きなことをしてしまったりできること。
- ・教室に集まってディスカッションをするよりも、オンラインだと自分の意見が出しづらいと感じる。
- ・記入する資料をPDFで送られてきて自分でコピーしなくてはならない。
- ・不定期であるが、教員側の通信の不具合により繋がらない時があり、時間を食う時があった。
- ・質問したくてもタイミングを見失うことがあった。
- ・一方通行の授業が多かったような気がします。
- ・対面と違い授業に対する緊張感・集中力が足りないというイメージがある。
- ・課題やテストも大体がレポート提出で終わってしまうので、知識が自分に定着しているのかが不安である。
- ・本来は知識を身につけるハズの授業なのが、レポートを取り敢えず書かせて終わりというような授業があり、結局、もう一度自分で復習したりして、勉強しないといけない授業があった。
- ・レポートも授業の感想だけを書かせるだけの内容であったので、知識が身につけているのかが不安だった。
- ・楽（ラク）ではあるが、教職の授業などは、やはり知識を定着させたいので、そういう面の不安がある。
- ・授業の資料がPDFで送られてきた際に、容量が大きかったため開けない場合があり、不便を感じたことがあった。
- ・また、リアルタイムの授業になると、ふざける

人がたまにおり、先生が話しをしている時に授業妨害する人がたまにいたので、それが非常に

よくないと思いました。

<双方>

・課題の評価が難しい。

・お互いコミュニケーションが取りにくい。

**③ 学生・教員が期待するこれからの遠隔授業**

<教員>

- ・著作権を明確にすることや自らの画像や動画を活用した視覚に訴える授業に取り組む
- ・授業内にしっかり聞いている学生をチェックしたり、こちらで学生たちには見えない部分で評価していたりしている。オンデマンドを今後のために、学生諸君の行動を見たくて、参考にしてきた。お互い創意工夫しながら、授業を進めていかないと、やはり学生諸君の集中力が切れ

- ・たりすると思ので、教員も工夫しながらやっていかないと、駄目なのかなと思っている。
- ・資料を先に見せたりとか、動画を先に見せたりして、+ a を授業でする。
- ・自宅での学習課題提示ということは復習だけでなく、反転学習・予習ということに繋がる、対面授業においてもハイブリット、ハイフレックス形態でのさらなる向上が見込めるなど。

<学生>

- ・オンデマンド方式の授業では、動画、資料の添付の他に、授業時間内にミートで質問が出来るようにする。
- ・パワーポイントを見る授業を meet ではなく、オンデマンド式にした方が良い。
- ・学生としては遠隔授業と対面授業が混合するとなが遠隔なのかそうでないのかの区別をつけにくく、一日に一個だけの対面授業のために学校へ行かなければならない負担があるので対面か遠隔かどちらかにするべき
- ・座学においては、対面授業でなくてもできるように思える
- ・オンライン授業なら、出欠確認や質問など、授業内で行い、先生と生徒とのコミュニケーションをする。
- ・オンラインでも実際に行う授業のようにスムーズに内容のある授業。

- ・もっと教員と学生の会話が増えると良いと思う。
- ・一方的な授業にならないように、積極的な姿勢が必要。
- ・オンラインがうまく使えるようになった部分、今まで通学時間にあてていた時間を他の学修であったり、自分の好きな時間に使えるようになったりするのは、大きいと感じます。
- ・今後としては顔出しとかオンデマンドではなく、オンライン（リアルタイム）の授業機会をもっと増やせば緊張感も出るし、より対面に近い形で授業が受けられると思います。
- ・もともと学生は対面のつもりで履修しているので、それに対して不満は言わないと思います。より対面に近い形式で授業ができれば、iPad を使ってもお互いデメリットを感じずに、授業が受けられると思います。

<双方>

- ・教員の動画作成の技術向上、学生の自主学習時間の増加が見込めるので遠隔にするべき。
- ・ICT 教育による講習会のようなものをもっと行っていく必要がある
- ・さまざまな地域のゲストスピーカーを交えた

- ・ディスカッションが可能になるため、授業を活性化させるのでは？
- ・遠隔授業で機器を扱うことは将来に役立つ学びだということを知ってもらう講義も必要だと感じる



# 報告 REPORT

## FD 研修会

### 「WEB シラバスに関する研修会」

日 時：令和2年12月15日（金）12時00分～12時30分

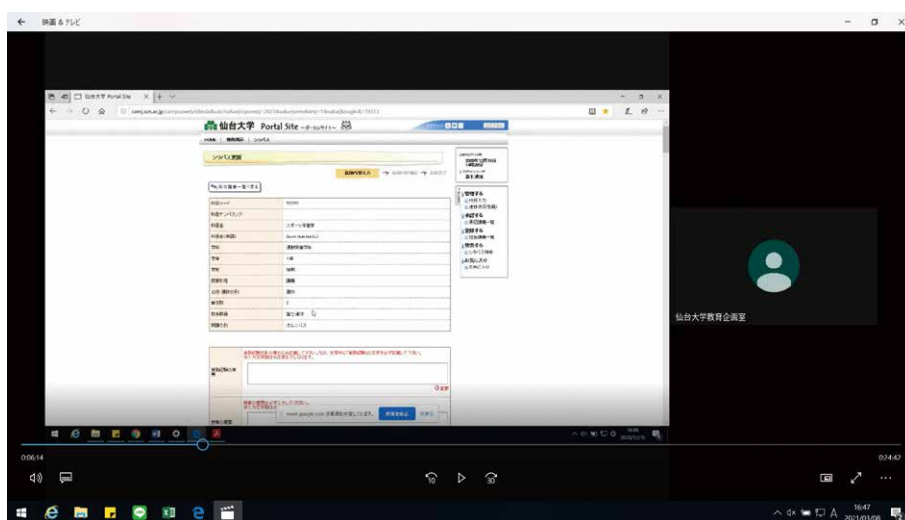
会 場：Google Meet（オンライン）

講 師：教育改善企画運営委員会 高橋徹委員長

参加者：全教員

テーマ：Web シラバス入力方法等について

来年度から、新たにポータルサイトによる Web シラバスに移行するため、シラバス入力の方法や、設定された記載欄や記載方法の変更について説明した。わかりやすいシラバスになるように、それぞれの変更箇所とともに、それぞれの記載の方法についても説明をした。



---

## SUFD Report2020 令和2年度仙台大学 FD 年次活動報告

編 集：仙台大学 教育企画部 教育改善企画運営委員会

委員長：平良拓也

委 員：針生 弘 郡山孝幸 林 直樹 福田伸雄 佐藤周平 加畑 碧

発 行：仙台大学

〒989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南2丁目2番18号 電話：0224-55-1121（代表）

制作・DTP：株式会社仙台紙工印刷

発行年月日：2021年3月26日